

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 4 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社 グループホーム 幸		
事業所名	グループホーム 幸		
所在地	047-0045 小樽市清水町20番9号 (電話) 0134-27-2600		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年4月19日	評価確定日	平成21年5月8日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「幸」は、JR小樽駅からバスで10分ほどの住宅街にある2ユニット18名の高齢者が生活するグループホームである。将来の事業拡大に備えた広い敷地には、手作りの池に金魚が泳ぎ、畑のバードテーブルには餌をついばむ野鳥の様子を眺めることができる。運営者は、公立の病院で30数年看護師として勤務してきた経験から、高齢の入院患者の生活の場所をつくりたいという思いと「一生幸せであれ、人生山あり谷あり、最後は幸せだったと思えるように」という意味を込めて平成18年にグループホーム「幸」を設立している。「楽しく愉快地に朗らかに」という理念に基づき、一日一日を楽しく笑いのある生活ができるよう、家族、地域、職員とが丸となって日常生活の支援に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念、地域とのつきあい、運営に関する家族等意見の反映は、現在も取り組みを継続しているところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットのリーダーや介護支援専門員が中心となり、朝の申し送りの時間帯に職員と検討を重ねてきた。自己評価を行うことで日常的に使っている言葉が利用者の尊厳を損ねることがないように、振り返りの機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月毎に事業所の和室を利用して2つの町内会の会長と民生委員、事業所の取締役、代表が参加して開催している。家族には案内状を送付しているが仕事の都合や高齢などのために参加は得られていない。外部評価や災害対策、地域連携・交流年間計画などについて話し合いを行っている。新年度は2ヶ月毎に開催していきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月1回発行している便りで全体の日常生活の様子を知らせている。家族の来訪時に、個別の暮らしぶりや健康状態、職員の交代を報告し、金銭出納帳の確認をしている。遠方などで来訪が難しい場合は、便りや金銭出納帳の写し、領収書を郵送している。運営推進会議に家族の参加を依頼しているが難しいため、個別に話し合うように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し回覧板を使って事業所の様子を知らせている。昨年の秋には、町内会主催の日帰り温泉旅行に利用者として代表が参加し、事業所主催の餅つきや雛祭りの行事には、町内会の役員などの地元の人々が参加して交流を持っている。近隣の小学校の教師からの依頼を受け、体験学習の一環として小学生が訪問し楽器演奏などを行っている。手宮西小学校が今年開校100周年を迎えるので、その記念行事に参加し桜の植樹をする予定である。

【情報提供票より】(平成21年4月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 3日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤18人 非常勤5人 常勤換算21人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 22,000円 暖房費(11月-4月)6,000円	
敷金	有(40,000 円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(4月15日 現在)

	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低 65 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立小樽第二病院 三ツ山病院 済生会小樽病院 石橋病院 なつ胃腸科 内科クリニック おきつ歯科
---------	--

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年3月の設立時に運営者が中心となって「楽しく愉快地に朗らかに」という事業所独自の理念を作り上げている。		これまでの理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を目指した理念の検討を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は文章化はしていないが、利用者が入居する場合や合同会議の場などで理念について話し合い共有している。他事業所を見学する際には、理念を比較し常日頃から理念の実践に向けて取り組んでいる。		理念を文章化し、事業所内に掲示することで更に職員間で理念が共有されることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し回覧板を使って事業所の様子を知らせている。昨年の秋には、町内会主催の日帰り温泉旅行に利用者と代表が参加し、事業所主催の餅つきや雛祭りの行事には、町内会の役員などの地元の人々が参加して交流を持っている。近隣の小学校の教師からの依頼を受け、体験学習の一環として小学生が訪問し楽器演奏などを行っている。手宮西小学校が今年開校100周年を迎えるので、その記念行事に参加し桜の植樹をする予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で2回目の評価であるが管理者は、自己評価項目の内容が事業所の現実とかけ離れているという印象を持っている。運営者は、事業所を運営するということは、多くのことを考え行動することが求められることであると理解し、学習不足を気づかせてくれる機会となったと捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	3ヶ月毎に事業所の和室を利用して2つの町内会の会長と民生委員、事業所の取締役、代表が参加して開催している。家族には案内状を送付しているが仕事の都合や高齢などのために参加は得られていない。外部評価や災害対策、地域連携・交流年間計画などについて話し合いを行っている。新年度は2ヶ月毎に開催していきたいと考えている。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	昨年12月から月1回、定期的に発行している便りを届けている。医療連携体制加算の書類の作成方法や請求手続き、領収書の切り方、後見人の相談などを行っている。また、市からは他事業所の見学についてアドバイスなどを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1回発行している便りで全体の日常生活の様子を知らせている。家族の来訪時に、個別の暮らしぶりや健康状態、職員の交代を報告し、金銭出納帳の確認をしている。遠方などで来訪が難しい場合は、便りや金銭出納帳の写し、領収書を郵送している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議に家族の参加を依頼しているが難しいため、個別に話し合うように努めている。事務所のカウンターに意見箱を設置しているが意見が入っていることは無く、家族等は意見や不満がある場合は、口頭で伝えている。苦情受付簿を作成し対応している。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	休憩時間と休憩場所を確保し、継続して働くことができる職場環境を整えるよう努めている。運営者の一方的な考え方を職員に押し付けることがないよう言葉づかいにも配慮している。離職する職員は、自己判断で利用者へ挨拶をすることもあるが事業所としては、ダメージを防ぐために職員の離職については説明していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて今年は2名の職員に実践者研修を受けさせる予定である。「小樽市認知症の人を支える家族の会」や小樽市グループホーム協議会などの研修に職員を派遣し、1週間後に報告書を作成、口頭での報告をして内部研修としている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ユニットから1名ずつ計2名の職員が1日間、市内の他事業所に実習に行っている。同業者との交流を通じて、比較することで客観性が養われ、他事業所の長所を参考にするなどの成果を得ている。従来の入浴時間の見直しやホーム便りへの意欲的な取り組みが行われている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談があった場合は、本人、家族に見学をしてもらっている。「楽しく愉快地に朗らかに」という理念を説明し、家族として仲良く生活できるようにしている。また、自立支援により介護度が軽くなった場合は退去する場合もあることを説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護度が重い状態で入居した利用者が徐々に元気になる姿を通して、人間の可能性と改めて健康の大切さを教えられている。また、今までできなかった動作ができるようになった時や入浴後に「気持ちよかった」という言葉を聞く時などは、利用者と職員が喜びを共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>睡眠の様子、食事量、水分量や血圧、体温、脈拍などの健康管理を通して思いや意向の把握に努めている。朝食後は、居間で利用者と職員がゆっくり談話する時間を設け、テレビや新聞の話題から本人の思いを聴いている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>新規作成の場合は、計画作成担当者が本人の状況と意向を家族から聞き、医療情報も参考にして介護計画を立案し、入居後は介護計画に基づいたサービスを提供している。入居後は、必要に応じて観察したことを話し合い、センター方式でのアセスメントを基に本人の思いも入れ、健康管理に重点を置いて見直しをしている。家族の来訪時に内容を説明し同意を得ているが家族の事情がある時には自宅を訪問して確認することもある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は経過をモニタリングし、ほぼ3ヶ月ごとに見直している。申し送りなどで本人の状態や課題を話し合い、心身機能の状態に変化がある時は、その都度、カンファレンスで対応を検討し、家族とも話し合う中で実情に合った計画を新たに作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制の中でホームの3人の看護師が各医療機関と連携し早期の対応で健康維持に努め、受診の同行・送迎を行っている。入居前の馴染みであるカラオケ喫茶店に出かける利用者に同行し、個人の楽しみにも柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には入居前のかかりつけ医を継続している。家族の事情に応じて看護師が受診に同行しそれぞれの主治医と連携をとっている。専門的な治療が必要な時は、総合的な治療が受けられるような方法を家族と話し合いながら進めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に、「医療連携体制」加算の説明時に重度化に対する指針についても文書で了解を得ている。終末期には医療行為が生じた場合は病院での治療になるが、療養など症状によっては看取り介護も可能なことを説明し、家族、主治医と方針を話し合っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人に合った声かけでプライドを傷つけないように配慮している。同じことを繰り返す利用者の言動を制止しないで、認知症からの症状を理解した対応ができるよう、申し送りや内部研修で指導している。個人記録等の書類は事務所に保管し情報の取扱いに配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎朝、管理者は利用者一人ひとりに声をかけ、その中で意向などを聞いている。月に1回は「利用者懇談会」をもち、たこ焼き、パンなど、食べたいものを聞き、暮らしについて話し合い、それらを参考に利用者のパターンに沿って希望を叶えるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者から取り寄せている食材を、時には好みに変えて調理している。また普段から食べたいものを聞いておき、寿司、刺身などの1品を加え食卓に彩りを添えている。食事の準備、後片付けはその人の能力に合わせてお願いし、食事中は会話を交わしながら見守っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男女別に曜日を決め、週4回の入浴を実施している。体調の状態や受診時には変更したり、夏季にはシャワー浴や足浴などを取り入れるなど状況に応じて柔軟に対応している。異性介助には必ず了解を得て、嫌がる場合は職員を交代し対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブルや食器拭き、下膳を仕事にしている利用者にはお願いし、洗濯たたみ、もやしの根とりなどは全員で行っている。ホームの畑で採れた、とうもろこしや枝豆などを収穫して食べる、外食をする、受診の帰りにアイスクリームを味わうなど、食べる楽しみの機会を大切に支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には毎日散歩し、ホーム裏側にある100坪弱の広い庭の花畑、野菜畑、池に泳ぐ金魚などを見て歩き、元気な利用者は坂道がある町内を回り、買い物などを楽しんでいる。冬季には受診以外は広い廊下、階段、屋内を歩き運動している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物が路線バス通りに面しており、日中は安全の面から玄関のドアをリモコンで開閉している。外に出るような様子があれば必ず理由を聞き、一緒に歩き見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間の対応マニュアルを作成し、年に2回、消防署の指導のもとに防災避難訓練を実施している。その他、年に2回は自主訓練を行い、設備の点検、火災発生時の誘導などの課題を話し合っている。玄関を含め、非常出口が3ヶ所あり災害時に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事は個人表に記載し全員の量を把握している。水分量は個人に合った摂り方を話し合い、対応への共有を図っている。食事は食材委託業者の管理栄養士がカロリー計算をし、ホームとの連携で栄養バランスを管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造を工夫し、どの場所にも1日に1回は日差しが入るようにし、居間の広い窓からは外の季節も楽しめる。居間ではキャスター付きのテーブルやイスを移動し、十分な広さで体操やレクを全員で楽しんでいる。また、2階への階段の段差を色分けし安全にも配慮している。観葉植物や金魚鉢が置かれ、共有空間の壁には絵画などが飾ってある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側ではタンス、カーテン、湿度計を各居室に用意している。居室には立派な掛け軸、布製小物の飾り、運河の絵、ラジオカセットテーブルコーダーで懐かしい歌を聞くなど、それぞれの生活感を持ち込んだ雰囲気作りになっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。